

音読とは、「声に出して文章を読むこと」です。国語の授業のみならず、たくさんの場面で行われます。毎日の宿題になっている学級もたくさんあることでしょう。

音読をする効果は、「脳の活性化」「集中力アップ」「読解力が身につく」「語彙力がつく」「ストレス解消」「感情のコントロールができるようになる」「コミュニケーション力がつく」など多くのことが言われています。音読の力を高めることは、さまざまな効果があることは確かです。

とは言われても……。先生が、「いまから音読をします」「今日の宿題は音読です」と言ったら、「やった!!」と思える人は少ないのが現実ですよ。

「間違えたら恥ずかしい」「めんどくさい」「何回も同じものを読んでおもしろくない」といった心の声も聞こえてきそうです。

この本は、そんなみなさんに少しでも音読を楽しんでもらいたい！音読を好きになってもらいたい！と

願ってできた本です。

文章を読む際には、文字を目で追っていくことが必要となります。書いてあることを理解するためには、一字ずつ文字を認識するのではなく、ひとまとまりの単語として理解することが求められます。そして、単語と単語を結びつけて、文章として理解しなくてはなりません。音読は、さらにその読み取ったことを声に出して読むのですから、簡単なことではありません。

しかし、個人の差こそあれ、音読は、くり返しおこなえば必ず上達します。うまくなっていくことを実感することが出来ます。

この本では、「グルグル回す」「語尾しばり」など、いつもは経験したことのないような音読の方法がたくさん登場します。「先生やおうちの人に怒られないかな」なんて心配の声も出てきそうですが、成功するまで何度もチャレンジしてみてください。必ず音読の力がアップします。

さあ、あなたも音読マスターへの1ページを開いてみてください！

① べるべる音読

レベル① 『謎とぶりきの独楽』八木重吉…………… 6

レベル② 『オヤカントオナベトフライパンノケンカワ』村山壽子…………… 8

② ひと息音読

レベル① 『夕日』葛原しげる…………… 12

レベル② 『つけ足し言葉』…………… 14

③ ウンじき音読

レベル① 『浦島太郎』…………… 18

レベル② 『ごん狐』新美南吉…………… 20

④ ころころ音読

レベル① 『五十音』北原白秋…………… 24

レベル② 『伊能忠敬』石原純…………… 26

⑤ 動作指定音読

レベル① 『はたはたのうた』室生犀星…………… 30

レベル② 『学問のすゝめ』福沢諭吉…………… 32

⑥ 語尾しばり音読

レベル① 『吾輩は猫である』夏目漱石…………… 36

レベル② 『やまなし』宮沢賢治…………… 38

# 1 ぐるぐる音読

「本をしっかりと手に持って、背筋をピンと伸ばして読みましよう」。授業で先生がみんなに投げかけるこの言葉、だれもが一度は聞いたことがあるでしょう。本を手に持つことにより、顔が上がり、のどが開きます。背筋を伸ばすことで、お腹から声を出すことができます。先生は正しいことを教えてくれているのですね。今回は、この正しい教えをバージョンアップして、さらに自分を鍛えていきますよ。では、その方法です！

「本をしっかりと手に持って、背筋をピンと伸ばして読みましよう。そして、本をぐるぐる回しましよう！」



「ぐるぐるっ！」と深く考えずに、思いきり回してみましよう。ぐるぐる回っている文字を読むのは至難の業ですが、しっかりと目を見開き、集中力を高めて読むと、くっきりと文字が見えてくるはずです！

## 音読の方法

- 1 本を手に持ち、背筋をピンと伸ばして音読の準備をする。
- 2 両手を使って本をぐるぐる回す。
- 3 ぐるぐる回る本に目を回さず、最後まで読みきいたら成功！

## ルール

- 1 どこを読んでいるのかわからない、うまくぐるぐるできない、目を回して倒れる……などは失敗となる。
- 2 あまりにゆっくり回している場合は、「回転不足」とみなし失敗となる。

## 応用

- 1 時間をはかり、だれが一番早く読み終えられたかを競う。
- 2 本のみならず、自分もぐるぐる回って音読する「ダブルぐるぐる音読」。

## コツ

- 1 両手を交互にうまく使い、一定のスピードで滑らかに回す。
- 2 本から目を離さず、集中して回る文字を追う。
- 3 おどおどせず、勢いよく音読する！



ぼくぼくひとりですらった

わたしのまりを

ひよいと

あなたになげたくなるように

ひよいと

あなたがかえしてくれるように

そんなふうになんでもいったらなあ

ぼくぼくぼくぼく

まりをついてると

にがいにながいまままでのことが

ぼくぼくぼくぼく

むすびめがほぐされて

花がさいたようにみえてくる



八木重吉

詩人。明治三十一年（1898年）現在の東京都町田市に生まれる。

大正十年（1921年）東京高等師範学校卒業後、兵庫県立御影師範学校英語科の教師となります。大正十四年（1925年）詩集『秋の瞳』を刊行しますが、昭和二年（1927年）に他界。没後刊行された『貧しき信徒』、『定本八木重吉詩集』などにより、評価が高まってきました。